

船

三年 画数 11
筆順 ノ、一、月、舟、舩、船
オン セン
フン ふね・ふな

成り立ち



沿ユキ（水のながれに沿って下ること。）
舟フネとをくみあわせてつくった字です。

「水のがれに沿ってすすむ舟」といういみの字で、「舟」よりも大がたものをいうのにつかわれます。

使い方

▽船は、大きな川をゆつくりと下って、ひろいうみにでました。
▽船長は、あらしとたたかいたながら、「ほをおろせ。かじをとれ。」と、船員たちにめいれいしました。

熟語例

▽船長（船員のうちで、いちばんえらい人。船員たちの長）
▽船員（船をあやつる人。船の、のりくみ員）
▽船室（船のおきやくがつかうへや）
▽船首（船のあたまのぶぶん。へさき。①「船尾」）
▽客船（お客をのせてはこぶ船。「ごうか客船、クイーン・エリザベス号」などといいます。）
▽連絡船（しまとしまのあいだや、川のりょうぎしのあいだを、お客やにもつをのせて、いききする船。りょうぎしのあいだを連絡するので、連絡船といえます。）
▽難破船（あらしにあたり、いわにぶつかつたりして、こわれてしまった船）

線

三年 画数 15
筆順 糸、紵、線
オン セン
フン

成り立ち



いイわワなナから、地チ下カ水スイがわいてながれ出る形をあらわした「泉（いずみ）」（6年936）と、「糸」とをくみあわせてつくった字です。泉のながれはほそいけれども、水はたえることがなくつづいてながれるものです。「泉のように長くつづいた糸」といういみの字です。

今では、糸にかぎらず、「細長いもの」のいみにつかわれます。例電線、線香、線路。
また、紙の上に書いた「細長い「すじ」」のことをいいます。例本に「傍線」をひく。

「泉」は、白と水とに分解できるので、「濁りのない水」のいみ。「白水」といういみの字と考えることもできます。」

使い方

▽教科書の中で、とくにおぼえなければいけない部分に線を引きました。したら、たちまち教科書が、線だらけになってしまいました。
▽などで、いくつもある点と点を、線で結ぶと、なかの形があらわれてくるのがあります。ばくは、線で結ぶ前に、その形を当てられたことがあります。

熟語例

▽電線（電気を通すための、細長い線）
▽線香（香料を、細長く固めたもの。仏前にそなえて、香りをたてるもの）
▽線路（電車などが通る、細長い鉄製の道。「電車の線路を修理する人の労働は大変だね」などというふうにつかいます。）
▽傍線（文章の傍らに引いた線。注意を引くために引く線です。「感心した文章に傍線を引いて、忘れないようにした」などというふうにつかいます。）
▽直線（まっすぐな線。①「曲線」。「曲線」は曲がった線です。「二点を結ぶ、最短の線は、直線です」などといっています。）